
小さな悲鳴

そこぬけ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな悲鳴

【Nコード】

N6208C

【作者名】

そこぬけ。

【あらすじ】

幼い頃からある家で体を弄ばれてきた奴がいた。なぜなら彼は・・
・だったから。

俺は自分のことを何もわからない。

自分の名前も年齢も親も何もわからない。

物心ついたときからそうだった。

俺の毎日は想像を絶するほど、酷いものだ。

奴らは俺の本当の親じゃない。

幼かった俺をどこからかさらってきたんだ。

もちろん、抵抗した。だが、大人数人相手にかてるわけがない。

奴らは毎日のように、俺の体を無理やり開き、あらゆる異物を詰め込んだ。

ときにはそれらの異物を取り出すこともあった。

ただ中を覗くだけで何もしないときもあった。

俺はつらかった、毎日のように体を弄ばれるのが苦痛だった。

死にたかった、でもそれは無理だった。

狭い空間に閉じ込め、奴らが俺を動けないようにした。だから体が動かせなかった。

それに奴らは俺が死なないようチューブのような物で俺に栄養を送り続けていた。

それが何かはわからない。ただ体がしびれるようなものだった。

一種の拒絶反応だったのかもしれない。

世界中に俺と同じ理由で苦しんでいる奴がいる気がして切なくなる。

俺の存在意義はなんだろう……。なぜ俺は生まれてきたのだろう……。

この生活が何年経っただろうか……。最近、もう少しで楽になれる予感がしてきた。

俺は近いうち死ぬだろう、そして俺の代わりがつれてこられるかもしれない。

俺はこの恨みを忘れない、絶対に……。

ブーン……。

真夜中、小さく寂しげな機械音が冷蔵庫から聞こえてきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6208c/>

小さな悲鳴

2010年12月14日19時35分発行